

はじめに

木本貴夫

日本の地図を觀るに、石灰岩の分布していないところは少なく、しかも石灰岩の分布するところ必ず洞穴があります。言い換えるならば、日本中至るところに洞穴が点在しています。しかしながら、わが國のケイビング（洞穴探検）及びスベレオロジー（洞穴学）が欧米のそれと同じく注目を始めさせたのはここ最近のことです。

わが探検部に於いては、1960年10月滋賀県多賀町の河内風穴洞を振り出しに1968年8月新潟県青海町の青海千里洞に至るまで過去9年もの間、数多くの洞穴調査を遂行してまいりました。そこで私達は今年で10周年を迎えるに當り、過去の調査資料を整理し、再検討すると共に、今後の一貫した調査方針を打つ立てたのです。それは一つの洞穴を調査するに當り、次の15項目をカードにチェックすることです。——（1）洞穴名（2）照会先（3）洞穴所在地（4）洞穴所在地の地質（5）洞穴の由来（6）測量図作成図（7）洞内説明（地下水流、鐘乳石、洞床、洞壁、洞内気象 etc）（8）生物（9）岩石、化石（10）写真撮影（11）探検装備の種類、数量及びその重要性（12）探検の難易の程度（13）危険な場所の有無としての理由（14）観光価値（15）洞穴にまつゆる伝説

—— 尤もここで私達が求め、又私達に必要なものは洞穴の専門的な知識ではなくて、一つのものを見て、これは貴重なものだとか、これは珍しいものだとかを判別できる程度の知識です。

さて、私達は以上の調査内容の実践として、今年の春、沖永良部洞穴調査を行いました。この島は1964年春に次いで二度目ですが、かなり満足できる成果を挙げることができました。中でも全長 1.5 km の瀨名B洞、全長 2.7 km の古里N.020洞（いすれも仮称）は特筆すべきものがあります。

今回の沖永良部島の洞穴調査は、私達が今後の最大の目標としてゐる新潟県の杵境マイゴミ平の解明及び東南アジアの洞穴調査の一助となることを確信して止みません。

最後に現地の島民の皆様方には過分なる御厚情を賜わり、感謝の支持で一杯です。特に初日旅館の林シゲ様、和泊町教育委員会の林道明様、瀨名、皆川、後蘭の各区長はじめ、皆様方には厚く御礼申し上げます。